

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 18 日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2014

課題番号：22520559

研究課題名(和文) スペイン語・ポルトガル語近親言語文化圏間の外国語教育と相互理解の諸相

研究課題名(英文) Various aspects of language education and mutual understanding between Spanish and Portuguese, two close relative languages

研究代表者

水戸 博之 (Mito, Hiroyuki)

名古屋大学・国際言語文化研究科・教授

研究者番号：80262921

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本プロジェクトは、ラテンアメリカを中心にスペイン語諸国とポルトガルが公用語であるブラジルの言語教育と相互理解の諸相を、狭義の学校教育のみならず音楽や食文化さらに政治社会等、様々な視点から考察を試みたものである。5年間の計画において、ラテンアメリカ(アルゼンチン・ブラジル等)を中心に計6件の海外調査と各専門分野の講師を招聘した5件の講演会を開催した。それら研究の概要は、冊子あるいはNAGOYA Repositoryに第3年度に中間報告書、第4年度に4年間の講演録、そして最終年度に最後の2年間の活動が掲載されている。

研究成果の概要(英文)：This project was aimed to analyze some aspects of language education and mutual understanding between Spanish speaking countries and Portuguese speaking Brazil from various points of view, not only school education in strict meaning but also music, food culture, socio-politics, etc. For the 5-year plan, six fieldworks principally in Latin America (Brazil, Argentine, Uruguay, Peru, Mexico and Paraguay) and five lectures by the specialists were carried out. The outline of the results is synthesized in three booklets or web-files NAGOYA Repository: progress report in the third year, memories of four lectures in the fourth year and final report in the last year.

研究分野：スペイン語学・ポルトガル語学

キーワード：スペイン語 ポルトガル語 外国語教育 国際コミュニケーション 異文化理解 音楽 芸術 テレノベラ

### 1. 研究開始当初の背景

スペイン語とポルトガル語、これら2言語を個々に社会言語学的観点から眺めると、複数の国家の公用語であり、世界言語としての性格もかなりの程度兼ね備えているといえる。一方、これら2言語の相互関係に目を転ずると、他の言語間には見られない高度な近親性が見られる。この近親性は、単に言語学的側面のみならず、地理・歴史・社会など多くの点で指摘できることである。しかしながら、この言語的近親性が友好的な相互理解に必ずしもつながらず、むしろ時には不幸なことに近親憎悪ともいべき対立を生んでいることも否定できず、ラテンアメリカにおける地域統合が円滑に進まない一因にもなっている。他方、日本においては、ルーツを日本に持つと同時に、ブラジルとペルー出身者を中心とする2言語文化圏に大別される多数の南米人の存在がある。

### 2. 研究の目的

本研究は、近親関係にあるスペイン語とポルトガル語2言語に焦点を当て、これらを母語とする各話者が、自己の言語文化のみならず、相互に他の言語文化を外国語および異文化という対象として学習理解し、さらに新たな文化的創造に展開しようとする諸相を、2言語が接触あるいは隣接する地域社会と地球的規模の言語文化圏という2つの視野において、明らかにしようとするものである。さらに、ラテンアメリカを対象とする地域研究的視点のみならず、上記の南米人が日本に在住している状況をいかに理解し対応すべきかということも本研究の視野に入る。

### 3. 研究の方法

研究は、言語的に広義のスペイン語・ポルトガル語圏、地域的には主としてラテンアメリカをフィールドとする言語、外国語教育、音楽、メディア、人口移動、食文化など各分野5名の研究者の連携によって行われ、各年度、連携研究者の海外調査と、研究組織が構成する「スペイン語・ポルトガル語言語文化圏研究会」主催による関連分野の専門家を招聘した講演会の二つの活動を中心に展開した。また、各研究者の専門分野について、関係する学会、講演会、シンポジウムにおいて、研究成果が発表された。

### 4. 研究成果

#### (1) 海外調査

平成22年度

ブラジル・ウルグアイ (重松 由美)

2011年2月13日~2月27日

(ブラジル) Criança Cultural, CIATE, ISECの日本語を学ぶ生徒を中心にアンケートおよびインタビュー。各機関関係者と面談。サンパウロ大学で資料収集。サンパウロ大学研究者、国際交流基金サンパウロ日本文化センタ

ー、ブラジル日本文化協会、サンパウロ州教育局、各関係者と面談。

(ウルグアイ) ウルグアイ - ブラジル文化協会関係者と面談。Universidad de la Repúblicaにて資料収集および関係者と面談。

アルゼンチン (西村 秀人)

2011年3月9日~3月21日

(ブエノスアイレスおよびサンタ・フェ) ブエノスアイレス大学文化センターをはじめ多数の施設、現地研究者、音楽関係者を訪問し、南米南部地域の音楽的特性・共通性・現代性・音楽教育さらにアルゼンチンにおけるブラジル音楽の現状等について意見交換をし、資料収集を行った。特にブエノスアイレス大学では、35年ぶりに公式に再開されたブエノスアイレスのカーニバルについて調査を行った。

平成23年度

ペルー (寺澤 宏美)

2012年2月21日~3月13日

(リマおよびクスコ) 海岸部の中心都市であるリマと内陸部都市クスコ2箇所を主な対象地とし、食糧事情と消費傾向の特徴を公設市場やスーパーマーケットで調査した。リマ市内においては、ペルー日系協会を訪問し、現地日本食レストランのメニューを調査したほか、日系学校関係者と意見交換を行った。また、ペルー外務省書記官との面談を通じ、ペルー国内におけるポルトガル語学習の現況についても情報を収集した。

平成24年度

メキシコ (野内 遊)

2013年3月1日~3月13日

(グアナファトおよびサラマンカ) グアナファト大学、La Salle Bajío 大学、グアナファト・サラマンカ大学を訪問し、研究者と意見交換および資料収集を行った。ブラジルの存在感やポルトガル語教育については、全体として顕著な変化は見られなかったものの、日系企業の進出に伴う、グアナファト大学言語学科日本語コースをはじめとするメキシコ地方都市の日本語学習熱は、今後も注視を続けるべき現象である。またブラジル制作のテレノベラおよび他のスペイン語諸国制作のテレビドラマのメキシコにおける受容とメキシコ制作の作品との関係についても調査を行った。

平成25年度

ペルー (寺澤 宏美)

2014年2月19日~3月6日

(リマ) 今回は対象地をリマ市に絞り、都市部の消費傾向の調査を継続した。カトリカ大

学およびペルー日系人協会において、関係者と面談および資料収集を行った。特に、日系人協会内の神内先駆者センターの調査により、食材が豊かなペルーにおける沖縄系の文化継承の独自性が明らかになった。一方、ブラジルにおける日系人との関係および差異の検討が今後の課題となった。

平成26年度

パラグアイ (渡辺 有美)

2015年2月13日~2月22日

(アスンシオンおよびイタ)

パラグアイにおけるブラジル文化の影響と現況を、音楽を中心に調査を行った。ブラジルを含む16名の研究者・音楽関係者とのインタビュー、多数の文献収集がなされた。スペイン語圏であるにもかかわらず、ブラジルから様々な分野で影響を受け、かつ国内には先住民のグアラニー語もかなり広範囲で通用する、パラグアイ文化の特質の一端が明らかにされた。

詳細は Nagoya Repository 収録の報告書等に記載。

(2)講演会

平成22年度

Carlos Aguirre (作曲家・ピアノ&ギター奏者)

「アルゼンチン音楽の国際性と地域性」(西村秀人と対談)

平成23年度

河野 彰 (大阪大学教授)

「"Department of Spanish and Portuguese"という概念は日本でも可能か？」

(使用言語：ポルトガル語)

平成24年度

渡辺 マルセロ (NPO Mixed Roots x ユース x ネット コンペイトウ代表)

松本 里美 (NPO シェイクハンズ代表)

「総合テーマ：『在日外国人の現状～大学ができることは・・・』」(平成24年度は基盤研究(C)課題番号24520461「在日(経験のある)ブラジル人高校生と大学生のアイデンティティと言葉の関係」(研究代表者 重松 由美)と共同開催)

平成25年度

Jorge Anzorena (SELAVIP 代表)

“Un encuentro entre Asia y América Latina en el desarrollo humano” --- Actividad de la ACCA (Acción Comunidad Coalición Asiática ---

(「人間開発におけるアジアとラテンアメリカの出会い」 (使用言語：スペイン語)

平成26年度

二村 久則 (名古屋大学名誉教授)

「ラテンアメリカの女性大統領たち」

詳細は Nagoya Repository 収録の講演録に記載。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

西村 秀人、ウルグアイのアフリカ系音楽『カンドンベ』にみる文化変容 - 人種を超える国民文化化の過程 -、国際開発研究フォーラム、査読有、vol.42、2012、pp.125-138。

重松 由美、在日ブラジル人高校生・大学生の言語生活とアイデンティティ、杉山学園大学教育学部紀要、査読無、vol.5、2012、pp.59-68。

野内 遊、水戸 博之、テレノベラ El clon における麻薬中毒者の表象とその背景 - ナタリア・フェレルの転落と更生を中心に、名古屋大学大学院国際言語文化研究科言語文化論集、査読無、vol.33、No.2、2012、pp.113-128。

水戸 博之、テレノベラ El clon における二つの宗教：イスラム教とキリスト教 - 人間の誕生に関する生命倫理を巡って -、名古屋大学大学院国際言語文化研究科言語文化論集、査読無、vol.34、No.1、2012、pp.107-124。

野内 遊、スペイン語圏で制作されるナルコテレノベラの構造とタイプに関する一考察、イペロアメリカ研究、査読有、vol.36、No.2、2014、pp.47-61。

なお、これらのほか報告書に4点論文が掲載されている。

[学会発表](計9件)

西村 秀人、ウルグアイ・モンテビデオにおけるカーニバル音楽のポピュラー音楽への取り入れ、日本ポピュラー音楽学会 東海地区例会、2010.10.30、名古屋大学大学院国際開発研究科(愛知県名古屋市)。

重松 由美、在日ブラジル人が話す日本語の変容、多言語化現象研究会第2回研究大会、2011.3.26、関西学院大学梅田サテライトキャンパス(大阪府大阪市)

野内 遊、テレノベラの社会的機能と El clon における麻薬問題の表象、日本ラテンアメリカ学会第33回定期大会、2012.6.2、中部大学春日井キャンパス(愛知県春日井市)。

水戸 博之、テレノベラ El clon における二つの宗教：イスラム教とキリスト教 - 人間の誕生に関する生命倫理を巡って -、日本ラテンアメリカ学会第33回定期大会、2012.6.2、中部大学春日井キャンパス（愛知県春日井市）。

寺澤 宏美、在日ペルー人の食生活に関する考察、日本ラテンアメリカ学会第33回定期大会、2012.6.3、中部大学春日井キャンパス（愛知県春日井市）。

水戸 博之、ブラジル制作テレノベラのリメイク版に関する考察—O Clone から El Clon へ—、日本ポルトガル・ブラジル学会、2012.10.20、天理大学（奈良県天理市）。

野内 遊、教育コンテンツとしてのテレノベラ—El Clon を中心に—、日本ラテンアメリカ学会第34回定期大会、2013.6.2、獨協大学（埼玉県草加市）。

寺澤 宏美、日系人の中のニホン—食生活を中心に—、日本ラテンアメリカ学会・中部部会研究会、2014.6.7、中部大学（愛知県名古屋市）。

野内 遊、ナルコテレノベラの台頭、日本ラテンアメリカ学会第35回定期大会、2014.6.7、大学（埼玉県草加市）。

〔図書〕（計2件）

重松 由美、明石書店、在日ブラジル人のエスニック・アイデンティティー—ブラジル人学校の保護者へのアンケート調査の結果に基づいて（佐竹 眞明編著、在日外国人と多文化共生地域コミュニティの視点から、2011、324所収）pp.104-117 (ISBN-10: 4750333425)。

Coriún Aharonián (coordinador),  
*El tango ayer y hoy*, Centro Nacional de Documentación Musical Lauro Ayestarán, Montevideo, 2014, 496; Hideto Nishimura,  
*Tango en Japón: entre lo japonizado y lo auténtico* pp.367-390  
(ISBN: 978-9974-36-253-6).

〔その他〕

ホームページ等

Nagoya Repository 収録

1. 中間報告書 平成25年3月

<http://ir.nul.nagoya-u.ac.jp/jspui/handle/2237/19092>

2. 講演録 平成22—25年度

<http://ir.nul.nagoya-u.ac.jp/jspui/handle/2237/19328>

3. 最終報告書 平成27年3月

<http://ir.nul.nagoya-u.ac.jp/jspui/handle/2237/215>

56

研究組織

(1)研究代表者

水戸 博之 (MITO, Hiroyuki)  
名古屋大学・大学院国際言語文化研究科・教授  
研究者番号：80262921

(2)研究分担者

なし ( )

研究者番号：

(3)連携研究者

西村 秀人 (NISHIMURA, Hideto)  
名古屋大学・大学院国際開発研究科・准教授  
研究者番号：90402411

重松 由美 (SHIGEMATSU, Yoshimi)  
名古屋大学・大学院国際言語文化研究科・学術研究員  
研究者番号：80447846

寺澤 宏美 (TERASAWA, Hiromi)  
名古屋大学・非常勤講師  
研究者番号：00619447

野内 遊 (NOUCHI, Yuu)  
名古屋大学・非常勤講師  
研究者番号：10620148

渡辺 有美 (WATANABE, Yumi)  
名古屋大学・非常勤講師